

Ⅲ 基本計画

基本計画の考え方

基本計画は、基本構想に示したまちづくりの基本目標や政策に基づき、各分野における「現状と課題」を整理し、「10年後のめざす姿」や「成果目標」、「目標達成のための具体的な方法」、「施策を進めるにあたっての役割」などを定めたものであり、毎年度進捗状況を点検します。「10年後のめざす姿」を実現するため、各分野においてどのような取組を行うのかを具体的に記載しています。

基本計画個票の見方

- 基本目標** 施策の属する「基本目標」の番号と名称を記載しています。
- 政策** 施策の属する「政策」の番号と名称を記載しています。
- 施策** 施策の番号と名称を記載しています。
- 現状と課題(現時点での結果と原因)**

施策における現状と課題を「現時点での結果と原因」として箇条書きで整理しています。課題の抽出にあたっては、まちづくり町民アンケートやまちづくり懇談会など、町民みなさんの意見を反映させるよう努めています。

- 10年後のめざす姿**

施策において、今後10年間でめざすべき姿を簡潔に記載しています。

- 成果目標**

施策の成果を図る指標とその目標数値を掲げます。指標については、何をどれくらいやったかを把握する「活動指標(アウトプット)」と、どのような効果があったかを把握する「成果指標(アウトカム)」に分けて記載しています。

- 関連する公共施設**

施策の各分野に関連する公共施設を記載しています。

- 目標達成のための具体的な方法**

10年後のめざす姿や成果目標を達成するための具体的な方法を前期5年間で重点的に取り組む「短期的事業」と10年間で継続的に取り組む「継続的事业」に分けて記載しています。各事業には実施主体をカッコ書きで表示しています

- 施策を進めるにあたっての役割**

施策を進めるに当たり、行政だけではなく、事業者、地域、町民が果たすべき役割を記載しています。

- 関係する個別計画**

施策の各分野に関連する個別計画を記載しています。

※必要に応じて、文章中の意味が分かりづらい用語について、巻末(Ⅳ参考資料)に解説を記載しています。
※余白には、補助資料として、グラフや写真などを表示しています。

第6次広尾町まちづくり推進総合計画の体系

まちのめざす 将来像	まちづくりの基本目標（5）	政 策（12）
海・山・川が織りなす、 希望が灯るサンタランド・ひろお	1 豊かな自然を生かした 活力ある産業のまちづくり 【重点プロジェクト】 ● 広尾の魅力発信 ● 「広尾の食資源」開発、伝承 ● 「サンタランド」の魅力向上 ● 「賑わいと健康」創出	1 第1次産業の振興
		2 商工業・観光の振興
	2 住み慣れた地域で 安心して暮らせる 支え合いのまちづくり 【重点プロジェクト】 ● ひろお子育て力向上	1 子育て・福祉の充実
		2 高齢者・障がい者福祉の充実
		3 健康づくりの推進
	3 豊かな心を育み 文化を高めるまちづくり 【重点プロジェクト】 ● 自分大好き	1 幼児教育・学校教育の充実
		2 生涯学習・社会教育の推進
	4 住みやすさが感じられる まちづくり 【重点プロジェクト】 ● 買い物利便性向上 【重点プロジェクト】 ● 空き家再生	1 安心・安全な環境の確立
		2 便利で快適な生活の確保
		3 環境保護の取組
	5 次世代に引き継ぐことが できるまちづくり	1 住民が活躍するまちづくり
		2 地方創生の推進

施 策 (38)		10年後のめざす姿
①水産業の振興	P67	漁港がにぎわうまち
②農業の振興	P70	牛乳を飲むまち、食べるまち
③林業の振興	P73	木であふれるまち
①商工業の振興	P75	事業主が元気なまち
②観光・サンタランドの振興	P78	もっとサンタランドのまち
③企業誘致・起業支援	P80	新たな仕事を生み出すまち
④雇用・労働者対策の推進	P82	多様性を受け入れるまち
⑤十勝港の整備と利活用の推進	P84	十勝成長の拠点
①子育て支援の充実	P86	安心して子どもを産み育てられるまち
②地域福祉の推進	P88	支え合いのまち
①高齢者・障がい者福祉の充実	P90	自分らしく過ごせるまち
②介護予防・介護サービスの充実	P93	元気なシニアが多いまち
①健康づくりの推進	P95	健康寿命が長いまち
②地域医療体制の充実	P97	良質な医療を受けられるまち
①幼児教育の充実	P99	みんなで楽しく遊べるまち
②小中学校教育の充実	P101	自分で行動できる子どもを育てるまち
③高校教育への支援と交流	P104	地域を支える子どもを創るまち
①生涯学習と社会教育の推進	P106	いつでも自発的な学びができるまち
②家庭教育の充実	P109	笑顔の家庭があふれるまち
③芸術文化の振興	P111	誰でも芸術文化に触れられるまち
④文化財の保存、継承	P113	誰でもまちの歴史を語れるまち
①防災・減災対策の充実	P115	災害に備えるまち
②消防・救急体制の確立	P118	安心して暮らせるまち
③交通安全・防犯対策の推進	P120	安全なまち
④安心で便利な買い物環境の整備	P122	いつでもどこでも欲しいものが買えるまち
①道路整備・公共交通の確保	P124	安心して便利に移動できるまち
②居住環境の整備	P126	住んでみたいと思われるまち
③環境衛生の向上・資源リサイクル	P128	クリーンでエコなまち
④上下水道の整備	P130	水がおいしいまち
⑤情報通信技術等の活用	P132	ＩＣＴで便利なまち
①地球環境・エネルギー対策の推進	P134	再生可能エネルギーを活用するまち
②公園・緑地など土地の適正利用	P136	子どもの笑い声が聞こえるまち
③自然環境の保全と特色ある景観づくり	P138	自然を守り、生かすまち
①町民参加のまちづくりの推進	P140	頼り合えるまち
②まちづくり人材の育成	P143	町民が主役になれるまち
③広報・広聴、情報公開の充実	P145	町民と一緒に考えられるまち
①効果的・効率的な行財政運営	P147	節約上手なまち
②移住・定住・交流・関係人口の創出	P149	魅力にあふれるまち

重点プロジェクト

まちの喫緊の課題に対応し、前期5年間で集中的に推進する分野横断的な施策を「重点プロジェクト」としてまとめました。この8つのプロジェクトは、人口減少対策や地方創生にも関わるものです。

実行に移す際は、プロジェクトチームを組織して、関係する団体の職員や一般町民などにも参画していただくことを想定しています。それぞれのプロジェクトには、まちづくりワークショップで出された「日本で一番、〇〇なまちをめざす！」という目標を掲げ、産業・経済団体、福祉・教育団体、地域団体などと町が対等なパートナーシップを築き、まち全体の力を結集して、「日本で一番」魅力のあるまちに少しでも近づけることができるよう、機運を高めていきます。

① 広尾の魅力発信プロジェクト

“広尾の魅力や情報が集まる拠点の創出”

② 「広尾の食資源」開発、伝承プロジェクト

“新たな魅力の創出と今あるものの魅力の再発見”

③ 「サンタランド」の魅力向上プロジェクト

“ここにしかない「サンタランド」の魅力に磨きをかける”

④ ひろお子育て力向上プロジェクト

“地域みんながお父さん、お母さん”

⑤ 自分大好きプロジェクト

“関わり、交わり、認めて、育てる、地域の宝”

⑥ 「賑わいと健康」創出プロジェクト

“豊かな自然の中で、健康増進と体験型観光を楽しむ！”

⑦ 買い物利便性向上プロジェクト

“誰もが町内で買い物しやすい環境をつくる”

⑧ 空き家再生プロジェクト

“空き家を徹底的に活用し、人が集まる場をつくる”

①広尾の魅力発信プロジェクト “広尾の魅力や情報が集まる拠点の創出”							
水産業		農業	商工業	観光・サントランド	町民参加	地方創生	
担当課 企画課、水産商工観光課、農林課							
目 標 「日本で一番、また来たくなるまちをめざす！」							
現状と課題（現時点での結果と原因）							
●町外客が、町内において観光情報や飲食店の情報などを入手しづらい。インターネット上の情報も乏しく、せっかく来町しても十分に楽しむことができないことで、また来たいと思ってもらえない可能性がある。 ●町の特産品は、水産加工店や菓子店での販売のほか、ふるさと納税の返礼品としても活用しているが、その魅力を多くの人に十分にアピールできているとは言えない。 原因 まちの特産品の現物や各種情報を集約してわかりやすく魅力的に紹介する拠点施設がなく、また、推進体制も確立されていないため。 ●町民が、休日などに町内で過ごす場所が少ないため、帯広や札幌など他のまちに買い物やレジャーに出かけてしまい、購買力の流出とまちの活気の喪失に繋がっている。 原因 町民が多目的で集い楽しむ場や遊具の充実した公園などが少ないため。また、町内の小売店の多くが日曜日に営業していないため。							
方向性		広尾町の特産品やサントランドの魅力などをつめこんだ拠点（観光交流施設）をつくる。飲食、情報、物が集約され、町外客だけでなく、子どもから高齢者まで多くの町民が集い楽しむ場所とする。また、町民による地域内消費も喚起する。			概要		町外客が、特産品を買い求めたり、様々な情報を得たり、食事や飲み物を味わい、くつろげる場を提供することにより、「また来たくなるまち」をめざす。加えて、町民の利用を想定し、複合的な要素を盛り込んだ拠点としての機能を併せ持つ施設をめざす。（例：本×カフェ×パン×子供の遊び場×コンビニなど）
具体的な方法							
町外の人や町民の交流拠点となる、特産品を販売する施設をつくる。⇒（ねらい）まちの中心部に人を集める。							
推進方法							
事業化の際は、プロジェクトチーム（役場、観光協会、商工会、漁協、農協など関係機関の実働職員で構成）を組織し、コンセプトとターゲットを明確にして、広尾ならではの特色を前面に押し出した施設となるように練り上げ、他の地域の施設との差別化を図る。小さな規模から始めて、うまくいけば次のステップに進む考えとし、将来的に「道の駅」の機能を備えることも視野に入れる。							
【行政】の役割（国、道、町）		事業化に向けた基本方針や事業計画作成の中心的役割を担い、初期コストの財源を確保するための手続などを主導する。					
【事業者】の役割（企業、産業経済団体等）		各機関が連携し、コンセプトの提案から運営主体としての役割までを担い、収益を上げるよう最大限の努力をする。					
【地域】の役割（町内会、ボランティア・サークル等）		施設を積極的に活用するとともに、施設周辺の環境整備、施設の維持管理、運営の一部などにボランティアとしての参画を検討する。					
【町民】の役割（個人、家庭）		施設を積極的に利用するとともに、町外の知人などへの周知・利用促進に協力する。					

②「広尾の食資源」開発、伝承プロジェクト “新たな魅力の創出と今あるものの魅力の再発見”

水産業

農業

商工業

観光

食育

郷土学習

担当課 水産商工観光課、農林課、健康管理センター

目 標 「日本で一番、食べ物がおいしいまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●広尾町の食資源の豊富さや質の高さについての知名度が低く、他の地域の後れをとっている。

原因 広尾町産の水産物、農畜産物の多くが原料生産にとどまり、付加価値を高めるブランド化や、加工・調理などの商品化・メニュー化の取組が弱く、食資源の優位性を十分にアピールできていないため。

●広尾町ならではの食文化である魚のさばき方、イクラの作り方、魚介類を原料とした漬物、保存食などの作り方が伝承されず、消滅の危機にある。

原因 核家族化により次世代に調理法などが伝承されづらくなっていることに加え、共稼ぎ世帯の増加により、各家庭における調理の機会が減っていると思われるため。

方向性	広尾町の食資源の優位性（水産物：漁場が近いため鮮度が良く、魚種が豊富なこと。農畜産物：良質な生乳を生産していることなど）を生かした新たな特産品を開発するとともに、町の食文化を次世代の町民に伝承し、食べ物がおいしい町としての知名度を上げる。	概要	広尾町の水産物や農畜産物を原料とした新たな特産品を開発し、商品化・ブランド化を図ることにより、食資源の豊富さや質の高さをアピールするとともに、広尾町の食文化（魚を使った漬物、保存食など）を次世代の町民に伝承することで、地域の食文化を守り、広尾町の食の魅力を町内外に伝え広める。
-----	---	----	--

具体的な方法

- ①新たな特産品（加工品）や鮮魚をブランド化した商品を開発し、観光交流施設での販売、飲食店での提供、ふるさと納税の返礼品などで幅広く活用する。
- ②広尾の食文化を伝承する料理講座を定期開催する。

推進方法

生産者等が加工・商品開発・流通販売までを手掛ける第6次産業化の取組を支援する。（例：良質な生乳を原料としたチーズ、アイスクリームなど安心安全な広尾産オリジナル乳製品を開発し販売するなど）

また、新たに「特産品開発チーム」を組織したり、既存の広尾産業流通振興公社の機能を拡充したりするなど、商品開発やブランド化、販路拡大などに取り組む体制を強化する。

さらに、食文化伝承では、各産業団体の情報提供を受けて地域の中で講師となる人材を発掘し、組織化を図ることで継続的な伝承事業の実施を可能とする。

「行政」の役割（国、道、町）	全体を統括し、特産品開発や工房整備に係る交付金などの財源確保と、広尾産業流通振興公社を中心とした販路の拡大を図る。
「事業者」の役割 （企業、産業経済団体等）	各機関が連携し主体的役割を担い、特産品の商品化、ブランド化を進めるための生産体制を構築する。
「地域」の役割 （町内会、ボランティア・サークル等）	地域の中で人材を募り、広尾の食文化を伝承するための団体を発足し、料理講座等の継続開催に協力する。
「町民」の役割（個人、家庭）	特産品の積極的な消費と贈答などによる町外の人へのPRに努めるとともに、食文化伝承への理解と協力を行う。

③「サンタランド」の魅力向上プロジェクト “ここにしかない「サンタランド」の魅力に磨きをかける”

観光・
サンタランド

ひとづくり

交流人口拡大

関係人口拡大

担当課 水産商工観光課、企画課

目 標 「日本で唯一、サンタランドの魅力にあふれるまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

- 町民のサンタランドに対する想いが薄れてきており、まちぐるみで盛り上げる機運が低下している。

【原因】 サンタランドの基本理念「愛と平和、感謝と奉仕」の精神やノルウェーのオスロ市から認定されたことの価値が多くの町民に共有されていないため。

- イルミネーションやサンタメールなど、他のまちでも類似した取組や商品が存在するようになり、広尾サンタランドならではの魅力をアピールすることが難しくなっている。

【原因】 色々な地域で行われているクリスマスに関する取組や商品などとの差別化を図ることができず、色々なアイデアを試しているが、有効な策とはならず年々埋没していつているため。

- サンタランドを観光施設と捉えた場合、魅力に乏しく、長い時間滞在したいと思ったり、また来たいと思ってもらえるようなものになっていない。

【原因】 限られた予算での施設整備となり、時代が移ろいゆくなかで、観光施設としての新鮮さや、町外の人を引き付ける魅力の創出には限界があるため。

方向性

「サンタランドのまち」が国内唯一であることの価値を町民が再認識し、まちぐるみでみんなが楽しめるような取組を通じ、「サンタランド」を楽しみ、その魅力に磨きをかける。

概要

既存のサンタランド事業を継続し、内容を充実させて発信力を強化するとともに、話題性のある取組を新たに企画し、まちぐるみで取り組むことにより、サンタランドの魅力や精神、イメージを町内外にアピールする。また、写真映えするシンボルスポットを整備するなど、中高生・若者の興味を惹くような取組を織り交ぜ、サンタランドの魅力をさらに向上させる。

具体的な方法

- ① 既存事業（サンタメール、点灯式、ウェルカムサンタランドなど）は内容を充実させて魅力を高めるとともに発信力をさらに強化する。（例：新たに大人向けのサンタメールを作るなど）
- ② 若い世代の興味を惹く撮影スポットを創る。（例：イルミネーションの森の創設、サッポロファクトリー規模のジャンボツリーの設置など）
- ③ 町民が一丸となって取り組むことができる話題性のある事業を実施する。（例：クリスマスイヴの日に、町内の事業所の人全員クリスマスのコスチュームで仕事をするなど）
- ④ サンタランドのオリジナル商品を制作する。（町民や町外の方のアイデアを取り入れたり、デザインを募集したりする）

推進方法

プロジェクトチームを組織してサンタランドの精神に則った新たな事業を企画立案し、町内の団体の力を最大限に生かして実行する。また、サンタランドの精神を広めるためボランティア団体の育成を図り、民間主導で再度サンタランドを町民から盛り上げる機運を高める。

「行政」の役割(国、道、町)

基本理念「愛と平和、感謝と奉仕」を基にサンタランドの定番事業を主体的に推進する。

「事業者」の役割
(企業、産業経済団体等)

民間主導でサンタランド関連の取組を企画・実施するとともに、あらゆる面でサンタランド事業を支援し、まちぐるみでサンタランドを盛り上げる機運を創る。

「地域」の役割
(町内会、ボランティア・サークル等)

サンタランドの精神に則り、ボランティア活動など住民が手作りで行うことができるサンタランド関連の取組を主体的に実施するとともに、サンタメールを積極的に利用する。

「町民」の役割(個人、家庭)

サンタランドに住んでいることを自覚し、様々な事業や取組に関心を示し積極的に参加するとともに、子どものいる家庭は、クリスマスの過ごし方を工夫し、子どもたちに夢を与え続ける。

Ⅲ 基本計画

重点P



④ ひろお子育て力向上プロジェクト “地域みんながお父さん、お母さん”

子育て

少子化対策

ボランティア

公園緑地

担当課 保健福祉課子育て支援室

目 標 「日本で一番、安心して子どもを育てられるまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●必要数の保育士を確保することができず、待機児童が発生する恐れがある。

【原因】全国的に保育士の人材不足が問題となっており、広尾町においても慢性的に不足しているため。

●土日・祝日の保育や病児保育など保育サービスの更なる向上が求められている。

【原因】共働き家庭が増加し、その勤務形態も多様化しており、働きながら安心して子育てができる環境へのニーズが高いため。

●子どもの遊び場に対する町民の満足度が低く、屋内、屋外ともに遊ぶ施設が少ないとの指摘がある。

【原因】まちの中心にある丸山公園は、遊具が少なく、小さい子どもの遊び場として満足度が低い。また、大丸山森林公園は、徒歩や自転車では行きづらい。さらに、子育て世代の家族が居住地の近くに気軽に行ける公園がないと感じている。屋内の遊び場である子育て支援センターは、利用時間が限られていたり、土日や祝日に利用できなかったりするので、いつでも利用できる屋内の遊び場へのニーズが高まっている。

方向性

隣近所や町内会の結びつきを強くし、地域ぐるみで子育てを支える体制を整えるとともに、遊ぶ場所の整備や保育サービスの充実などにより、安心して子育てできる環境をつくる。

概要

一人で子育ての悩みを抱え込んでいる人に対し、子育てOG・OBを活用した子育て支援ボランティアの組織を育成するなど、地域ぐるみで子育てを支える体制を整備する。また、要望の多い「子どもが安全にのびのび遊べる場所」の整備や保育サービスの充実を図り、子育て支援のさらなる充実を図る。

具体的な方法

- ①支援を行うボランティアなどの人材を確保し、組織化したうえで、子どもの預かりを希望する人との連絡調整を行う「ファミリー・サポート・センター」を導入する。
- ②居住状況に応じた子どもの遊び場（屋内、屋外）の整備を推進する。
- ③病児保育や延長保育など保育サービスの充実を図る。
- ④「出産祝い金制度」を創設する。
- ⑤子育て世代包括支援センターの充実を図る。

推進方法

保健福祉課の子育て支援室を中心に、町内会などにも協力をお願いし、子育てOG・OBを募って、子育て支援ボランティアの組織化を進める。また、「子どもの遊び場」の整備に向けて検討の場を設け、子育て中の町民などにも参加をお願いし、公園の整備や空き家・空き店舗を活用した屋内遊び場の確保について検討する。

「行政」の役割(国、道、町)

- ・保育士の確保に努め、保育サービスの充実を図る。
- ・子どもが安心して遊ぶことができる場をつくる。

「事業者」の役割
(企業、産業経済団体等)

- ・子育てのための休暇を取得しやすい環境づくりに努める。

「地域」の役割
(町内会、ボランティア・サークル等)

- ・子どもや子育てを町内会など地域ぐるみで見守る体制をつくる。
- ・子育てOG・OBを中心としたボランティア組織の結成に参画・協力する。

「町民」の役割(個人、家庭)

- ・家庭の育児力の向上を図る。
- ・地域とのつながりを積極的にもつ。

⑤ 自分大好きプロジェクト “関わり、交わり、認めて、育てる、地域の宝”

幼児教育

学校教育

高校教育

家庭教育

社会教育

担当課 教育委員会管理課、社会教育課

目 標 「日本で一番、子どもが自分を好きになれるまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

● アンケートによると、町内の子ども達の中に自分に自信の持てない子が多く見られる。

【原因】 地域の大人が子ども達の様子を温かい目で見守ったり、よさを認めたりする機会が不足しているため。

● 子ども達の地元への関心が低く、郷土愛の醸成が不十分である。

【原因】 地元の産業や地域の住民と直接関わるのが少なく、地元の良さや歴史・伝統行事などを学ぶ機会が限られているため。

● 教育に関する家庭と学校、家庭と地域の連携協力関係の構築が不十分である。

【原因】 教育を学校に依存しており、家庭と地域の関わりが希薄なため。

方向性

幼児期から自己肯定感を高め、小・中・高校では自己実現、進路実現に向けた取組を行い、人格形成の基礎を養う。これらの取組を地域で支えることでまち全体の生涯学習の推進につなげる。

概要

子どもたちが自分の価値や存在意義を肯定し、夢や希望あふれる未来に向かうよう、学校・家庭・地域が「目指す子ども像」を共有し、実現に向け連携した取組を行う。学校では、個人の資質、能力（学力）の向上に努め、家庭では積極的に子どものよさを認める環境づくりを実践する。また、地域では行事等で子どもと交流を図りやすい環境づくりを進めるなど、まち全体で子どもたちに温かい眼差しを向ける。

具体的な方法

- ① 各小中学校の学校運営協議会により、保護者や地域住民等の学校経営への参画や学校運営への支援・協力を促進する。
- ② 「広尾っ子応援団」による応援メッセージ事業や「放課後読書等ふれあい広場」の実施により、児童生徒の自己肯定感を育むとともに、放課後の安全安心な居場所を提供する。

推進方法

各学校に立ち上げられた「学校運営協議会」と、「広尾っ子応援団本部」の連携により、学校運営に地域住民の意見を反映させる取組（コミュニティ・スクール）を推進する。

さらに、広尾高校のコミュニティ・スクールが定着した後に、小学校から高校までの学校運営協議会の連合体である「連絡協議会（仮称）」を組織して、小学生から高校生までの子どもを一貫して地域で守り育てる体制を構築する。

「行政」の役割（国、道、町）

- ・「資質・能力（学力）」を向上させるよう取り組む。
- ・地域の方々に向けて教育の情報発信を行う。

「事業者」の役割
（企業、産業経済団体等）

- ・教育に積極的に参画する意識を持ち、地域の子ども達を温かい目で見守る。
- ・従業員が学校と地域との交流の場に積極的に参加できるよう配慮する。

「地域」の役割
（町内会、ボランティア・サークル等）

- ・教育に積極的に参画する意識を持ち、地域の子ども達を温かい目で見守る。
- ・学校見学など、学校と地域との交流の場に積極的に参加する。

「町民」の役割（個人、家庭）

- ・家のお手伝いに積極的に取り組ませる。
- ・家庭内でも「叱る」より「よさを認める」ことで成長を促す。

⑥「賑わいと健康」創出プロジェクト “豊かな自然の中で、健康増進と体験型観光を楽しむ！”

水産業

農業

林業

体験型観光

スポーツ

健康づくり

地方創生

担当課 水産商工観光課、企画課、健康管理センター、農林課、教育委員会社会教育課

目 標 「日本で一番、田舎を楽しむまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●自然環境など豊かな地域資源を生かした遊びを提唱する活動が定着せず、優位性を生かし切れていない。

【原因】 地域資源を活用した体験メニューを開発し、町外から広尾町を訪れる人に対して提案するノウハウを持つ人や、体験メニューのインストラクターとなる人材が不足しているため。

●町民の健康づくり活動は、室内で行うものが多かったり、年代ごとに行われていたり、愛好者に限定されていたりで、屋外で誰もが楽しみながら行うものが少ない。

【原因】 パークゴルフを除き、屋外で行う健康づくり活動が少なく、世代を超えて楽しむことができる健康づくり活動が不足しているため。

方向性

自然など地域資源を生かした体験型観光を創出するとともに、身近な自然を生かした町民の健康づくりを推進する。

概要

自然など地域資源を生かした体験メニュー（例：サーフィン、農山漁村体験、潮干狩り、地引き網、釣り、鹿撃ち、山菜採りなど）を開発し、町外から訪れる方々に体験型観光を楽しんでいただくとともに、身近な自然を生かした健康づくり活動（ウォーキング、ゴミ拾い、自然ガイド、農山漁村体験など）を行い、豊かな自然環境を生かしたまちの賑わいの創出と、町民が楽しみながら健康増進を図る取組を推進する。

具体的な方法

①主に町外の人を対象とした体験型観光の体験メニュー（例：サーフィン、農山漁村体験、潮干狩り、地引き網、釣り、山菜採り、鹿撃ち＜ジビエ＞など）を開発する。

②主に町民を対象とした健康づくり事業（例：ウォーキング、サイクリング、ゴミ拾い、自然ガイド、農山漁村体験など）を企画して実施する。

推進方法

職員や町民の有志などを集め「プロジェクトチーム」を組織し、観光協会や体験型観光を担う「ピロロツリーズ推進協議会」（以下、「観光協会等」という。）とも連携し、体験型観光と町民の健康づくり事業を企画運営する。ポイント制を導入したり、自主的なサークルの立ち上げを促すなど、取組を継続できるよう工夫する。

【行政】の役割（国、道、町）

事業者や地域をサポートするとともに、健康づくり事業を企画するプロジェクトチームの中心的役割を担う。

【事業者】の役割
（企業、産業経済団体等）【観光協会等】 体験メニューを開発し提供するなど、体験型観光を運営する。
【その他の企業、産業団体】 体験型観光の取組に協力する。【地域】の役割
（町内会、ボランティア・サークル等）

健康づくり活動などに積極的に参加するとともに、自主的にサークルを立ち上げるなどして、活動の継続を図る。

【町民】の役割（個人、家庭）

これらの活動に関心を持ち、地域を盛り上げて、楽しみながら健康づくりを行う事業へ積極的に参加する。

⑦ 買い物利便性向上プロジェクト “誰もが町内で買い物しやすい環境をつくる”

商工業

買い物環境

公共交通

担当課 保健福祉課、企画課、水産商工観光課

目 標 「日本で一番、町民が買い物に困らないまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●アンケートによると、買い物の便利さに対する満足度が19%と低い状況である。

●町内の商店は情報が乏しく、また、品揃えが悪いイメージがあり、町民は帯広の店や宅配サービス、インターネット販売などで買う傾向があり、購買力の流出に繋がっている。

原因 本通り商店街には空き店舗が目立ち、空洞化が進んでいることに加え、音調津地区には商店が無く、野塚・豊似地区には商店が少ないため。

原因 帯広の大型店や生協などの宅配サービス、インターネット販売などは、商品選択の幅が広く、価格が安い商品を探すことも可能であるため、品揃えや価格の面で町内商店の競争力が弱い。

原因 町内の小売店の多くが日曜日に営業していないため。

方向性

町民が地域内で買い物しやすい環境を整えるとともに、町内小売店のサービスや商品（以下、「商品等」）の魅力を高め、情報発信を充実させることにより、地域内消費を喚起する。

概要

広尾ならではの商品等に磨きをかけ、その魅力を高めるとともに、公共交通の利便性を向上させながら、宅配サービスや買い物代行サービス、移動販売など買い物支援サービスの導入や情報発信の充実を図り、町民の買い物の利便性を総合的に高める。

具体的な方法

①外部人材の意見を取り入れ、町内小売店の商品等の魅力向上（既存の商品等の質の向上、パッケージの改善、新商品の開発など）に取り組む。

②インターネットの活用や、合同チラシの発行、「宅配便利帳³³」の配布など、あらゆる方法を駆使して町内の買い物情報の充実を図る。

③宅配サービスの拡大に加え、買い物代行サービスや移動販売・キッチンカーの導入を検討するなど、複合的な買い物支援サービスを展開する。

④高齢者が買い物に気軽に利用できるよう、地域内を循環する公共交通を抜本的に見直しする。

推進方法

商品等の磨き上げや情報発信の充実については、商工会を中心に取り組む。買い物支援サービスについては、町と社会福祉協議会、商工会が連携し、「宅配便利帳」の配布に加え、公共交通を活用した宅配や移動販売の導入に向けた実証試験を行うなど事業化を模索する。公共交通の利便性向上については、町民を交えた検討組織を立ち上げて抜本的に改革する。

【行政】の役割（国、道、町）

・地域内を循環する公共交通の利便性の向上を図る。
・商工会などと連携し、買い物支援サービスの充実に向け取り組み、町民の町内消費を喚起する。

【事業者】の役割
（企業、産業経済団体等）

【各小売店】 自店の商品等の磨き上げに取り組む。
【商工会】 外部人材の活用を図り、町内全体の商品等の魅力向上と買い物利便性の向上に努める。

【地域】の役割
（町内会、ボランティア・サークル等）

町内小売店での消費に努め、購買力を地域内に循環させる意識を持つ。

【町民】の役割（個人、家庭）

公共交通を活用しながら、町内小売店での消費に努め、購買力を地域内に循環させる意識を持つ。

⑧ 空き家再生プロジェクト “空き家を徹底的に活用し、人が集まる場をつくる”

商工業

観光

景観

地域福祉

居住環境

地域コミュニティ

町民参加

地方創生

担当課 企画課、住民課、水産商工観光課、保健福祉課

目 標 「日本で一番、空き家を活用できるまちをめざす！」

現状と課題（現時点での結果と原因）

●町内で空き家や空き店舗が増加しているが、再利用されずそのままの状態になり、老朽化が進行し周辺地域に悪影響を及ぼす可能性があるなど、問題となっている。

原因 空き家の情報を一元化する取組が機能しておらず、また、どのような目的で再利用可能かの検討もなされず、活用が進まない状態であるため。また、老朽建物は解体撤去にも多額の経費が掛かるが、持ち主が高齢化し、施設に入所している人もいて対策を行うことができないため。

方向性

町内に点在する空き家や空き店舗を様々な用途で再利用し、人が集まり交流する拠点づくりと空き家等の有効活用を図る。

概要

町内の空き家や空き店舗の増加が課題となっていることから、利用可能な空き家等をリフォームし、町外の人向けの拠点施設（ミニ道の駅、サーファーの拠点、畑付き住宅など）や、町民向けの拠点施設（飲食店、趣味の集まり、サロンなど）として有効活用することで、交流人口の増加と、町民の交流の機会の充実を図る。

具体的な方法

- ①空き家をリフォームし、ミニ道の駅（トイレを完備し、特産品を少し販売する）、サーファーの休憩所、畑付き住宅などの用途で、町外の人向けの拠点施設として利用する。
- ②週末だけの飲食店、趣味の集まり、サロンなどの用途で、町民向けの拠点施設として利用する。

推進方法

関係機関の担当職員を集め「プロジェクトチーム」を組織し、物件情報の調査から始め、活用方法の検討、町民ニーズの把握、所有者との協議、リフォームに向けた設計に町民意見を反映させるなど、空き家や空き店舗の活用に向けた総合的な取組を行う。また、サロンの運営は地域（町内会、ボランティアサークル、趣味の同好会など）が担うことができるよう、育成・支援を図る。

「行政」の役割（国、道、町）

プロジェクトチームを組織し、物件情報の調査からリフォーム支援まで、空き家等を活用するための情報収集と環境整備を主体的に進める。

「事業者」の役割 （企業、産業経済団体等）

【商工会】町外から来る人が移住する場合の就職先をあっせん（短期的・季節的な雇用、趣味も楽しめるような形態で）する。
【事業者】空き家や空き店舗への出店を検討する。

「地域」の役割 （町内会、ボランティア・サークル等）

サロンの運営、空き家の情報提供への協力、アットホームな環境づくり（受入側）を行う。

「町民」の役割（個人、家庭）

サロンに積極的に参加するとともに、空き家の情報提供に協力する。